

海外短期研修参加レポート（スペイン語学実習、サラマンカ大学）

国際交流学科2年生

私にとって今回のスペインは、初めて降り立った異国の土地であり、初めての海外留学だった。スペインに着いた途端、全てのものがスペイン語表記であり、聞こえてくる会話も全部スペイン語である。留学当初は、大学の授業で先生の話すスピードの速さに戸惑ったし、集中して聞き続けていると頭が痛くなるほどだったが、一週間もすればある程度耳が慣れ、意識的に聞こうとせずとも内容が頭に直接入ってくるようになった。一切日本語が通じない土地に置かれて初めてスペイン語というものを身近に感じたし、何より「教養」として学んでいたスペイン語が「意思を伝達する手段」に変化したと思う。

今回の短期研修では「語学力の向上」が一番の目的であったが、現地で生活をしてみることで、日本との文化の違いについても多く学ぶことができた。スペインには、昼下がりの時間に多くのお店やレストランが休業時間となるシエスタがある。日本でお店に入った時、まずはお店側から「いらっしゃいませ」と挨拶があると思うが、スペインではこちらから先に「Hora」と声をかける。お店から出るときには「gracias」と挨拶をしてから店を出る。自分なりに考えて、これは料理を出してくれたことや、商品を見せてくれたことに対して、お店の人に感謝の心を伝えるためなのかなと思った。

海外短期研修を終えた今、初めて海外で言語を学ぶには、今回の留学は最適な選択だったと思っているし、スペインで過ごした時間は私にとって非常に有意義なものとなり、スペイン語学習での大きなモチベーションになった。